

2020年11月9日

内閣総理大臣 菅 義偉 様
厚生労働大臣 田村憲久 様
万博担当大臣 井上信治 様
衆議院議長 大島理森 様

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-23-14
日本同盟基督教団「教会と国家」委員会
委員長 本間羊一

靖国神社秋季例大祭への真榊奉納に対する抗議声明

私たち日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は、靖国神社の秋季例大祭に合わせて、菅義偉首相、田村憲久厚生労働相、井上信治万博担当相、大島理森衆議院議長が真榊を奉納したことに対して、以下の理由で強く抗議いたします。

1. 抗議の対象とする事実

2020年10月17日、靖国神社の秋季例大祭に合わせ、菅義偉首相は「内閣総理大臣 菅義偉」の肩書で、また、田村憲久厚生労働相、井上信治万博担当相、大島理森衆議院議長もそれぞれ真榊を奉納しました。加えて、安倍晋三氏は首相退任後、一議員であれば何をしても不問になると考えているかのように、9月19日と10月19日に靖国神社を参拝しました。

これらの靖国神社への真榊の奉納、また、同神社への参拝という宗教的な行為は、日本の過去の植民地支配・侵略戦争を美化する同神社の歴史観と同じ立場に立つことを意味するものです。また、加藤勝信官房長官は19日の記者会見で、「私人としての行動と理解しており、首相として適切に判断されたものと承知している」と説明し、肩書が「内閣総理大臣」だったことについては「その地位にある個人を表す場合に慣例としてしばしば行われることであり、あくまで私人としての奉納だ」と述べています。しかし、菅義偉首相は、官房長官時代には「真榊」を奉納していなかったにもかかわらず、今回は、安倍晋三前首相が例大祭にあわせて「真榊」を奉納してきたことを踏襲したということが各社の報道で共通して指摘されています。それは菅義偉首相が、私人ではなく公人として靖国神社の歴史観に立つことを表明しているとしか言えず、加藤勝信官房長官の発言の内容も明らかに矛盾しています。

2. 私たちの信仰の自由を侵害したこと

まず、「真榊」は神事における祭具としての供え物であり、首相や国務大臣が、その肩書を「真榊」に明記しながら一宗教法人である靖国神社に奉納することは、国の機関として神事に参加することを意味しています。これは、「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない」、という憲法第20条3項の「宗教的活動」にあたり、第20条1項の特定の宗教団体が「国から特権を受け」ることにもなりますので、政教分離原則に明らかに違反しています。さらに、上記の宗教行為は、再び靖国神社の国家護持化が進むのではないかと、どの危惧を抱かせます。

かつて日本の教会は、戦時下において神社参拝を強要されたときに抵抗することができず、自ら国家に従い、その結果、偶像礼拝の罪を犯しました。そればかりか、当時植民地とした国々のキリスト教徒に対する神社参拝の強要に協力さえしてしまいました。私たちはそのことを悔い改め、二度とそのような時代を来させてはならないと考えています。ところが、今後も首相・閣僚らによる靖国神社への真榊奉納等が続くならば、再び戦前戦中のように神社参拝が国民に強要され、唯一の神である主だけを礼拝すべきという私たちの教義に反する行為が「社会的儀礼」の名の下に強要されることになり、私たちの信仰の自由が奪われることになるのではないかと懸念するのです。ひいては、憲法の三原則である国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を踏みにじることになるのです。

3. 軍国主義復活の恐れがあること

かつて日本は、靖国神社を精神的支柱としてアジア諸国を侵略し、植民地支配を行い、多くの人々の生命と尊厳を蹂躪しました。それゆえ日本国憲法は、第20条において政教分離原則を定め、信教の自由を保障するのみならず、靖国神社を精神的支柱とする軍国主義の再興を防いでいるのです。

ところが靖国神社は、過去の日本が犯した侵略戦争を「アジア解放の戦争」「自存自衛の正義の戦い」と美化しています。そのため、上記の宗教行為はこのような靖国神社の考え方を支持することになり、日本における軍国主義の復活を彷彿とさせ、アジア諸国に対して脅威を抱かせることにもなります。

実際、首相の真榊奉納に対して韓国外務省は、「韓国政府は日本が過去の侵略戦争を美化し、戦争犯罪者を合祀した靖国神社に日本の政府および議会指導者らが再び供物を奉納したことについて、遺憾を表す」、また、「新たな内閣の発足をきっかけに、日本の責任ある指導者たちが歴史を直視し、過去への謙虚な省察と真の反省を行動で示すなど、韓日関係の未来志向の発展にふさわしい行動をすることを強く求める」と報道官論評を出しています。安倍晋三氏の首相退任直後の靖国神社参拝についても、韓国外務省は「深い憂慮と遺憾」を表明しており、一議員になったとは言え、その言動をアジア諸国は注視しています。

これらの靖国神社への真榊奉納、また、靖国神社参拝という行為は、アジアの人々のうちにある不信感を強め、アジアにおいて和解と友好の営みを築き、育もうとしている人々の思いと反するものです。

以上の理由から私たちは、父、子、聖霊の三位一体なる神を唯一の神と告白し、信仰の良心に基づいて平和を祈り求める者として、今回の首相・閣僚らによる靖国神社への真榊奉納に対し強く抗議いたします。

「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。あなたは自分のために偶像を造ってはならない。・・・中略・・・それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。」(旧約聖書 出エジプト記 20章 3～5節)

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」(新約聖書 マタイの福音書 5章 9節)